



す ま い る

五月晴れという言葉がありますが、今年は例年になく太陽の出る日が少なかったように思います。園の畑で子ども達が栽培している玉ねぎやジャガイモなどの生長が心配です。それでも園の周りの木々の緑が鮮やかで桜のピンクから藤の花の紫へと色を変え、小鳥のさえずる声が心地よく聞こえてきます。

連休前にカマキリの赤ちゃんが生まれました。春先、担任の先生と園庭で見つけたカマキリの卵を大事そうに職員室に持ってきて、「机の中にして置いてほしい。」と言い、毎日登園しては机の中を見ていました。それは突然何の前触れもなく、朝出勤すると無数の小さなカマキリの赤ちゃんが…。登園した子ども達と保護者の方と一緒に職員室中に広がったカマキリを捕まえました。カマキリの赤ちゃんはほんとに小さく、か細くて、捕まえるとつぶしてしまいそうでしたが、誰が教えたわけでもないですが年中組の湊君や聖菜ちゃんも優しくそっと捕まえていました。後で知ったことですがカマキリの卵は暗くて暖かい場所で飼うことが良いということでしたので、職員室の机の中ということは「理」にかなっていたのですね。今度は餌になるアブラムシ探しです。園庭の草花についていないか探しても見つかりません。このままでは死んでしまうので、あちこちに電話をしアブラムシがないか聞いてみると、教育委員会の入り口の菜の花にいるという連絡が入り早速取りに伺うと、その間心配をしてくださったビジターセンターの加藤さんが訪ねてきてくださり、この小さな出来事は、カマキリの生態だけではなく、たくさんの方の優しさを感じる出来事になりました。数えきれないほどいたカマキリの赤ちゃんは今は1匹になってしまいましたが、大事に育てているところです。



カマキリのエサって何？

「自然がいっぱい」

蝶の博士の白土信子さんが「アサギマダラ」の幼虫とさなぎをもってきてくださいました。アサギマダラの幼虫はキジョランの葉を好み、それを餌にしながらかさなぎになっていきます。幼虫を見た子どもは「かわいい！触ってみたい！」といて掌で動く幼虫の姿に大喜びでした。お迎えに来る小学生のお姉さん達も幼稚園時代「アサギマダラ」と触れ合ってきたので興味をもって観察していました。だんだんと黄色から緑色に姿を変え、今はきれいな黄緑色のさなぎになっています。成虫になることが楽しみです。

また、園庭のよもぎを摘んでのお団子づくり。「ぎざぎざのはっぱ」「葉っぱの裏が白いよね」「あと匂いがする」その特徴を覚えていた子ども達。園庭で摘んですり鉢で擦りながらおいしいよもぎ団子をいただきました。

12日には、ビジターセンターの筑紫さんをお招きして園庭での自然観察。水を使って、たんぼぼの綿毛の実験や鳥の声を聞いたり鳥探したり、子どもが「えっ！」と思う体験をさせて頂きました。

「見る」「触る」「嗅ぐ」「聞く」「食べる」まさに五感を使った豊かな経験の中で1番大切な「心を動かす」体験を積むことが出来ました。身近な環境の中でこんな体験ができることに感謝とこの自然をいつまでも守ることの大人の責任を感じました。「なんかいいよね箱根って」というより「やっぱりいいよね箱根って」という思いです。(^^♪



先月の園だよりでもお知らせしましたが、幼稚園が地域のコミュニティーの場になるよう、今年度は、感染予防に配慮しながら内容豊かに色々と計画しました。未就園児を対象としたきらきらキッズの活動、地域の方や小学生との交流など別紙でお知らせしますので、ご近所の方とお誘いあわせの上、どうぞご参加ください。夏休みには、地域の小学生対象にワークショップも計画中です。卒園児でなくても構いませんので、是非ご参加ください。また、地域から園児と「こんなことをしたい」というご要望があればどうぞ気軽にお声掛けくださればと思っています。

TEL (83) 6159 FAX (83) 6169

どうぞご協力ください。



「箱根中学校ってどんなところ？」

小涌園で福祿寿のお参りをした後、箱根中学校を訪問すると、多田校長先生が子ども達に優しく声を掛けてくださいました。中学校の外壁の寄木細工の模様と自分のマスクが同じことに気付いたり、階段の手すりの高さがいつもより高いことに気付いたりといろいろな気づきがあり、中学校に親しみを持たれたようです。今度の5歳児交流での再会を楽しみにしています。

